

平成21年10月2日

=地域と保護者の皆様へ=

横浜市立富士見中学校
校長 下川 秀樹

平成21年度 10月号 富士見中 学校だより

『小さな富士見に 大きな誇り』



実りある日々に

副校長 田原 裕

日照不足が心配された今夏もあっという間に過ぎ、季節は秋・・・昔から収穫の秋、読書の秋、勉学の秋などといわれているように、まさに実りの頃となりました。

農作物だけでなく、人間もこの時期を逃さず、さまざまな体験を通して、しっかりと成長していきたいものです。

さて、9月26日（土）、爽やかな秋空の下、第48回体育祭が行なわれました。

昨年は、体育館工事の関係で南吉田小のグラウンドをお借りして実施しましたが、今年は本校での開催に戻り天候にも恵まれ、学年練習・全体練習・準備とスムーズな流れで当日を迎えることができました。幸い大きな怪我などもなく、無事に終了することができました。ご観戦くださいました保護者の皆様、来賓の皆様、地域の皆様には、心より御礼申し上げます。



<校舎から見たグラウンド>

体育祭の準備から当日までの生徒たちの動きを見ていて、最も印象に残るのは、富士見中の伝統とその精神を継承していこうと努力する生徒たちの一生懸命な姿です。

ご存知の通り、富士見中学校の体育祭は、応援演技の曲決め、衣装作製、演技創作からすべて3年生がリーダーシップを取り、縦割りの利点を生かして、1・2年生への演技指導までを見事なまでに取り仕切ります。（教職員はあくまでもサポート役です）

この方式は、歴代の卒業生や教職員が試行錯誤しながら確立したものであり、それを現在も形のみでなく精神まで立派に受け継いでいるのです。

修学旅行が終了した直後から約4ヶ月間。もちろんすべてが順調に進むはずはありません。成功に至るまでの仲間同士の意見のぶつかり合いは凄まじいものがあり、たくさんの議論が交わされ、そして多くの涙も流されます。



<男子応援創作演技>

さまざまな困難や壁に直面し、それらを一つ一つ乗り越えながら、やっとの想いで当日を迎

える3年生はとても頼もしく成長しています。そして、そういう3年生の姿を見ながら、1・2年生も伝統の重みを直に感じ、次年度へと受け継がれていくのです。

富士見中の生徒は、どんなに運動が苦手でも、どんなにトップから離されても、最後まであきらめずに一生懸命走ります。それはそういう仲間たちの努力の一つも無駄にすまいとする伝統の重みでもあります。

さて、体育祭が無事に終了した陰に、たくさんの方々のご支援があったことを忘れてはいけません。

今年も、地域の青少年指導員・体育指導員の皆様、石川小パパの会の皆様、本校PTA実行委員の皆様には、早朝から、準備、運営、警備など多方面にわたりお世話になりました。

ひとつのイベントを成し遂げるにあたり、陰で支えてくださっている方々の存在は本当に心強く、感謝の念にたえません。今後とも富士見中の生徒をしっかりと見守ってくださいますようお願い申し上げます。



<ありがとうございました>

熱く燃えた体育祭も終り、10月9日（金）で前期が終了、そして休み明けの13日（火）からは後期が始まります。

9月30日には、早くも次の大きなイベントである文化祭のメイン、合唱コンクールの指揮者講習会が行なわれました。各クラスの後期委員決めもスムーズにできたようです。

落ち着いた学校生活を送ることで、生徒たちはどんどん成長していきます。誰もが安全で安心して生活できる学校、そして信頼される学校づくりに、教職員一同、今後とも精一杯努力してまいります。

どうぞ、ご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。